
インド洋津波に関する報道が
和歌山県民の意識・行動に与えた影響に関する実態調査



群馬大学工学部建設工学科
災害社会工学研究室

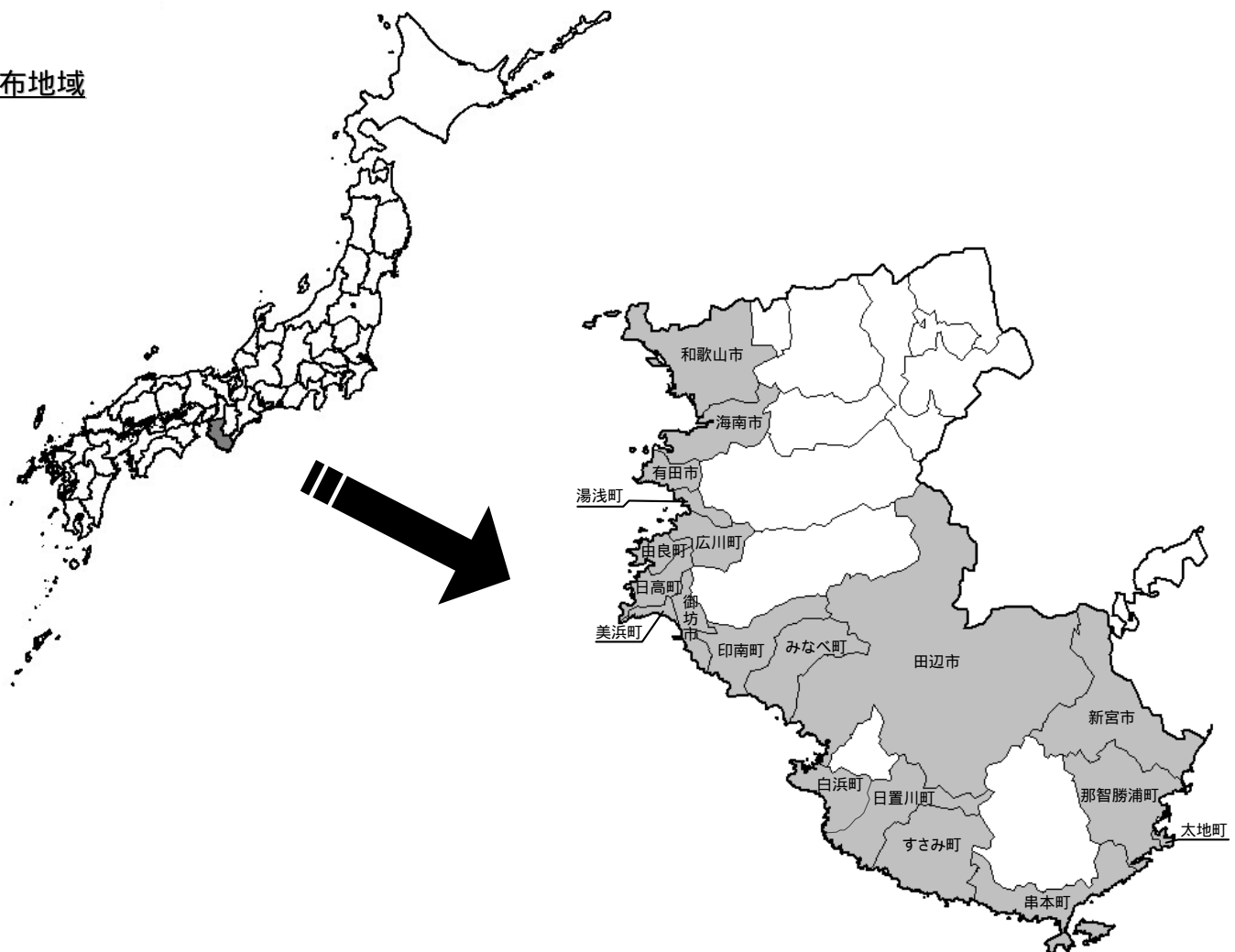
調査概要

実施方法・回収数

各市町の防災担当者に200部を送付し、以下のように方法で調査を実施してもらった

市町名	配布数	回収数	回収率(%)	実施期間	配布世帯の選定方法
1 和歌山市	200	176	88.0	-	-
2 海南市	200	109	54.5	-	-
3 有田市	200	165	82.5	-	-
4 御坊市	200	169	84.5	8月15日～9月10日	自主防災組織、学校、老人会等の団体、役所職員に配布
5 田辺市	200	171	85.5	-	-
6 新宮市	200	172	86.0	-	-
7 湯浅町	200	111	55.5	-	-
8 広川町	200	192	96.0	-	-
9 美浜町	200	152	76.0	8月19日～9月10日	消防団、自主防災組織の代表者経由で町内住民に配布
10 日高町	200	140	70.0	-	-
11 由良町	200	151	75.5	8月10日～9月8日	役場職員経由で沿岸住民に配布
12 みなべ町	200	161	80.5	-	-
13 印南町	200	160	80.0	10月18日～31日	無作為抽出、郵送配布・郵送回収
14 白浜町	200	105	52.5	8月22日～9月15日	役場来訪者、近隣住民、知人、役場職員等に配布
15 日置川町	200	143	71.5	8月24日～9月15日	自主防災組織、区長等に配布
16 すさみ町	200	116	58.0	8月22日～9月1日	役場来訪者、役場職員等に配布
17 那智勝浦町	200	169	84.5	8月19日～9月4日	役場職員、町内沿岸地区の住民に区長経由で配布
18 太地町	200	193	96.5	-	-
19 串本町	200	186	93.0	8月23日～9月7日	自主防災組織の代表者経由で町内住民に配布
計	3800	2941	77.4		

配布地域



【住民の事前意識】

多くの和歌山県民は、インド洋津波発生前から津波に対して高い関心を持っていた！

【報道の効果1】

多くの和歌山県民は、インド洋津波に関する報道を高い関心を持って、自分の住む街での津波を意識しながら、視聴していた！

【報道の効果2】

多くの和歌山県民は、インド洋津波に関する報道を見て、自分の住む街での津波の発生可能性やその際の被害の程度などに関する意識が変化した！

【報道の効果3】

多くの和歌山県民は、インド洋津波に関する報道を見て、自分の住む街でもインド洋津波のような大津波が発生することもあり得ると感じ、津波に備えた対応を行おうと思った！

【報道の効果4】

しかし、インド洋津波発生後、津波に対する何らかの対応をとった住民の割合は1 / 4程度であり、半数の住民はとろうとしたがすることができていなかった！

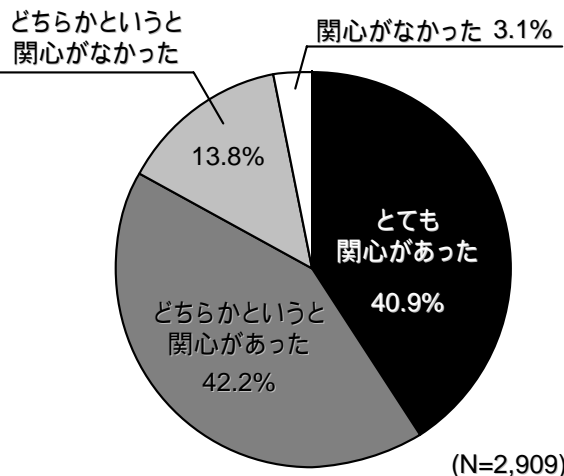
【問題点1】

多くの和歌山県民は、津波からの避難について、情報に大きく依存している！

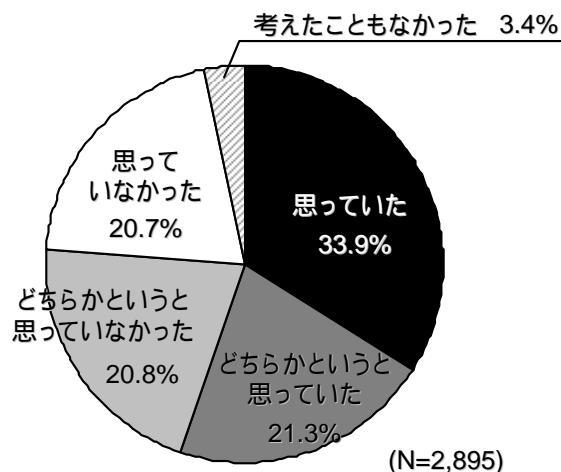
【問題点2】

多くの和歌山県民は、津波の発生メカニズム等に関して多くの誤解をしている！

インド洋津波発生前の和歌山県民の津波に対する意識は？



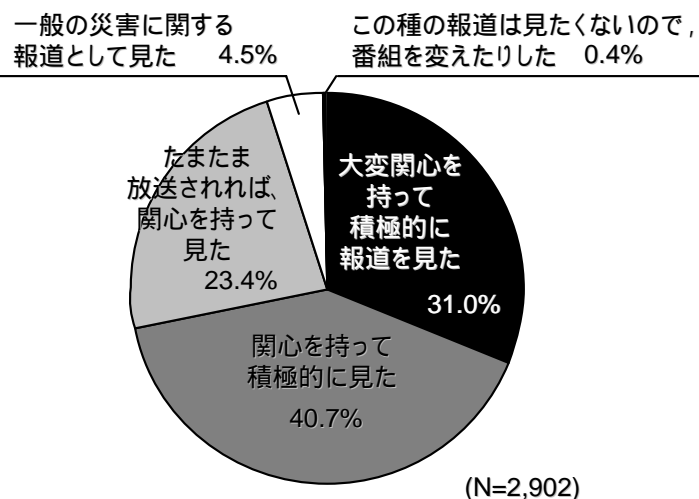
津波に対する関心



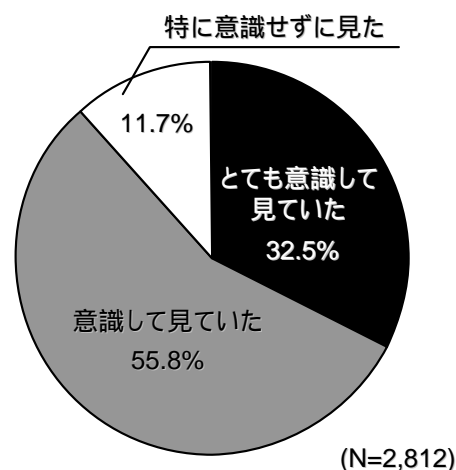
津波が発生した場合の自宅が被害あう可能性

! 約83%の住民が津波に対する関心を持っていた一方で、津波によって自宅が被害にあうと思っていた住民は約55%であった。

和歌山県民は、どのような意識でインド洋津波の報道を見ていたのか？



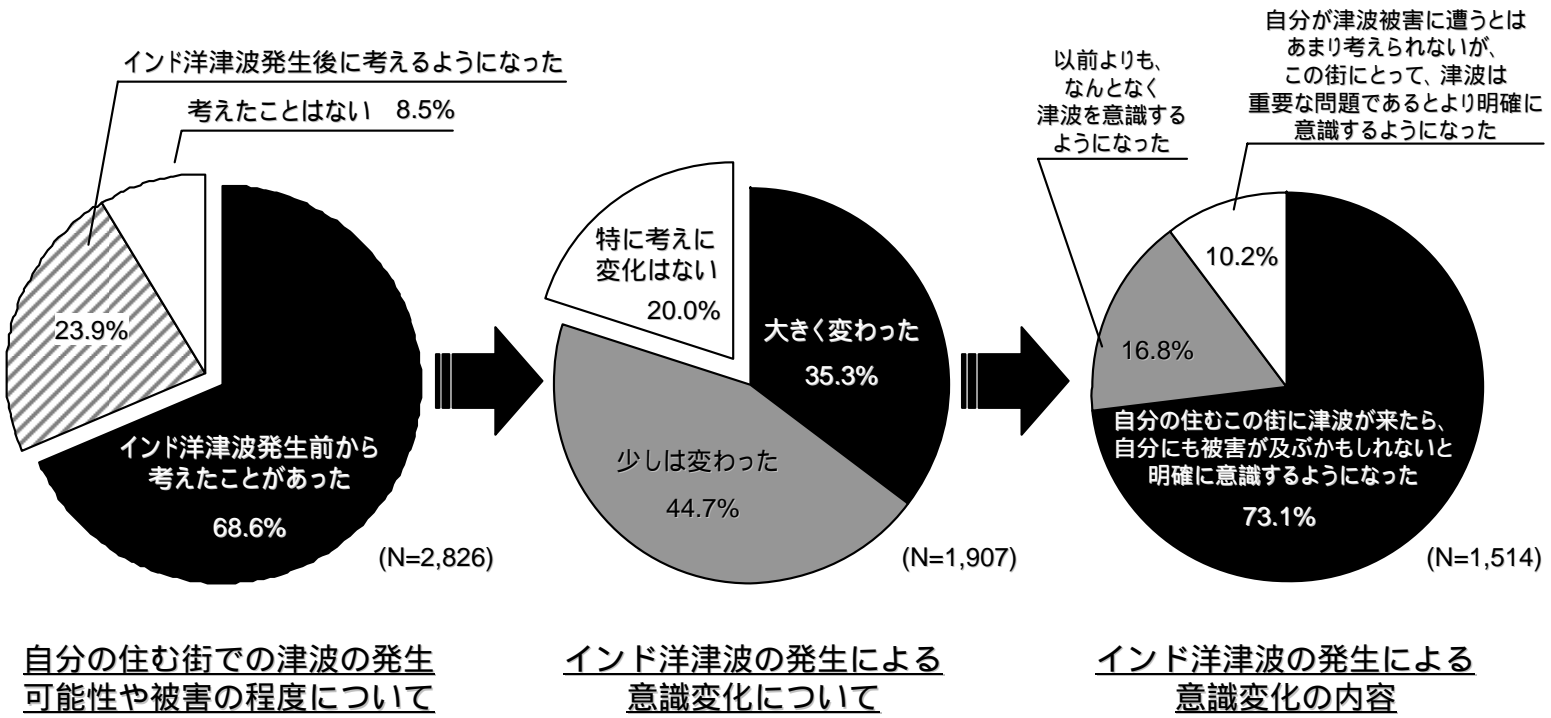
インド洋津波を視聴した際の意識・姿勢



自分の住む街のことを意識したか

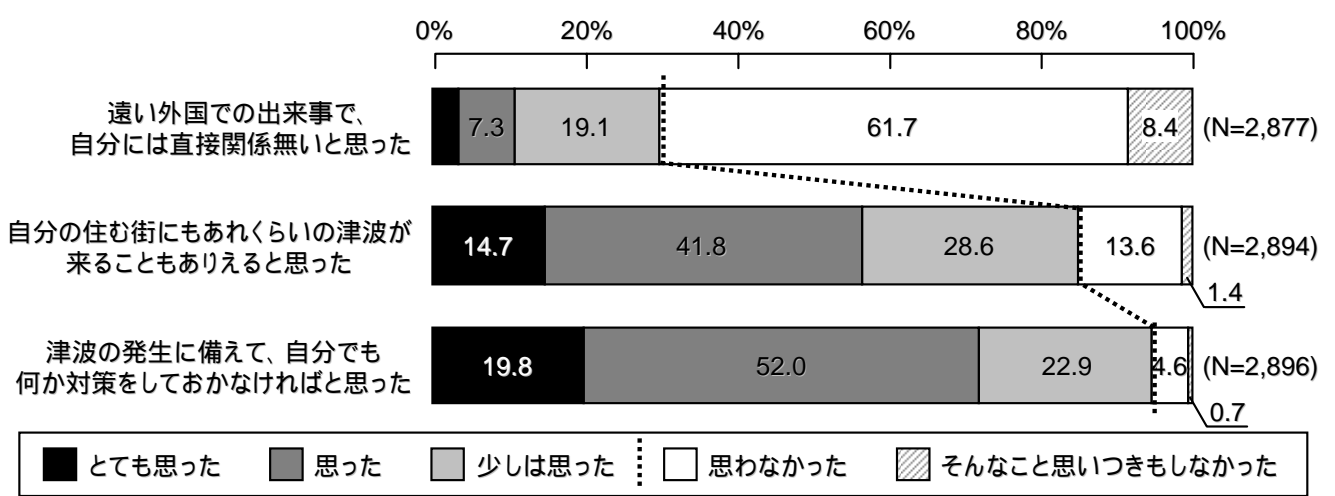
! 約72%の住民が関心を持って積極的にインド洋津波に関する報道を視聴しており、また、約88%の住民はそれらの報道を自分の住む街での津波のことを意識して見ていた。

インド洋津波に関する報道によって、和歌山県民の津波に対する意識は変化したのか？



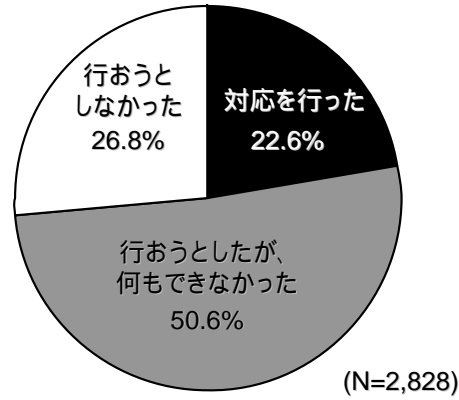
! インド洋津波発生後に『自分の住む街での津波の発生可能性』などを考えるようになった住民が24%存在した。
 インド洋津波発生前から『自分の住む街での津波の発生可能性』などを考えたことがあった住民についても、そのうち約80%の住民は、インド洋津波の発生によって、それまでの考えに何らかの変化が生じたと解答している。
 その内容としては、『自分住む街での津波を明確に意識するようになった』と約73%の住民が解答している。

和歌山県民は、インド洋津波の報道を見て、どのような感想を持ったのか？



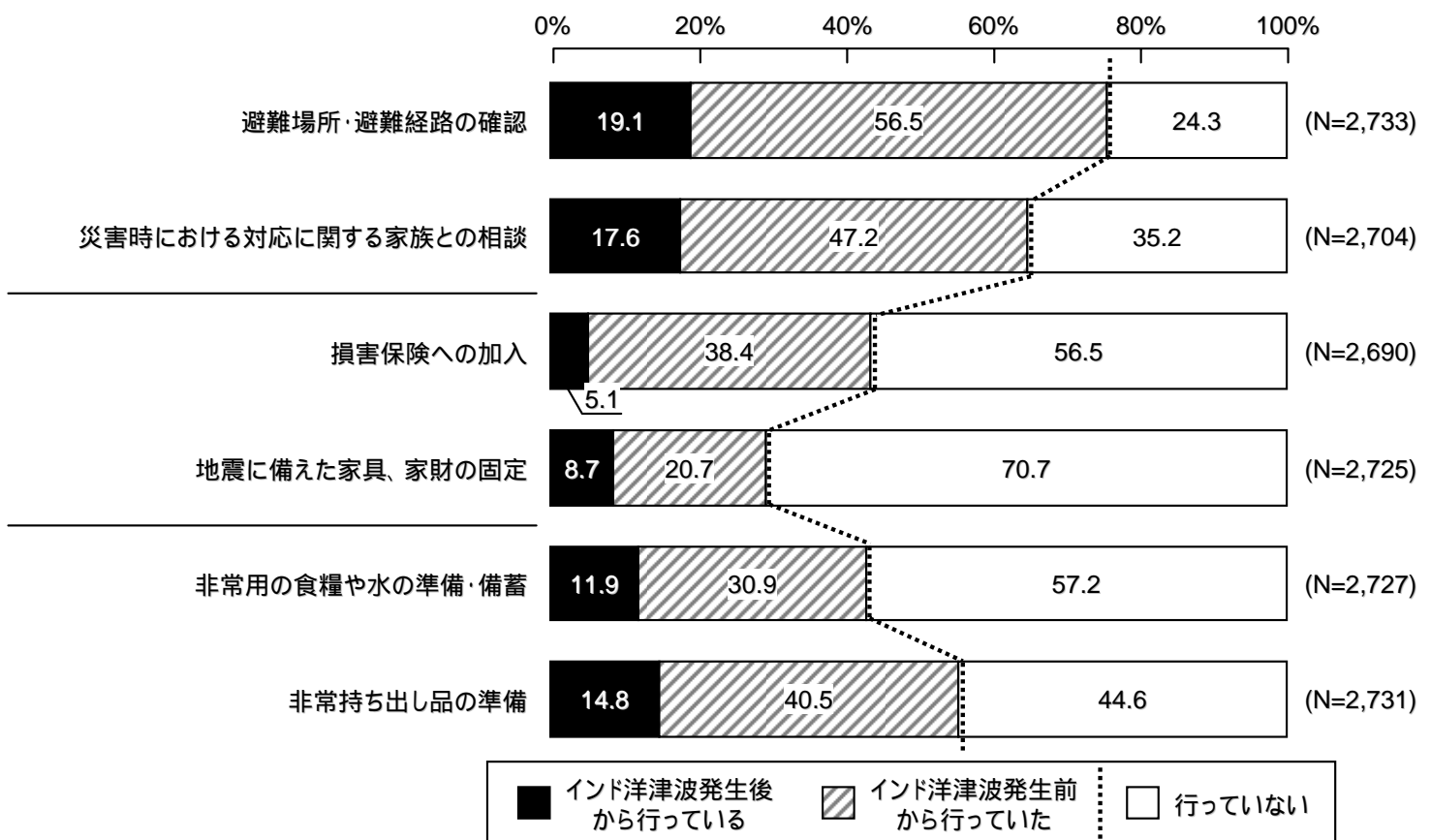
! 約70%の住民は今回のインド洋津波の発生を『自分には関係ない』とは思わず、多くの住民(約85%)は『自分の住む街でもあり得る』と思った。
 そのために、『何か対策をしておかなければ』とほぼ全ての住民が思った。

インド洋津波発生後，和歌山県民は津波に備えて何らかの対応を行ったか？



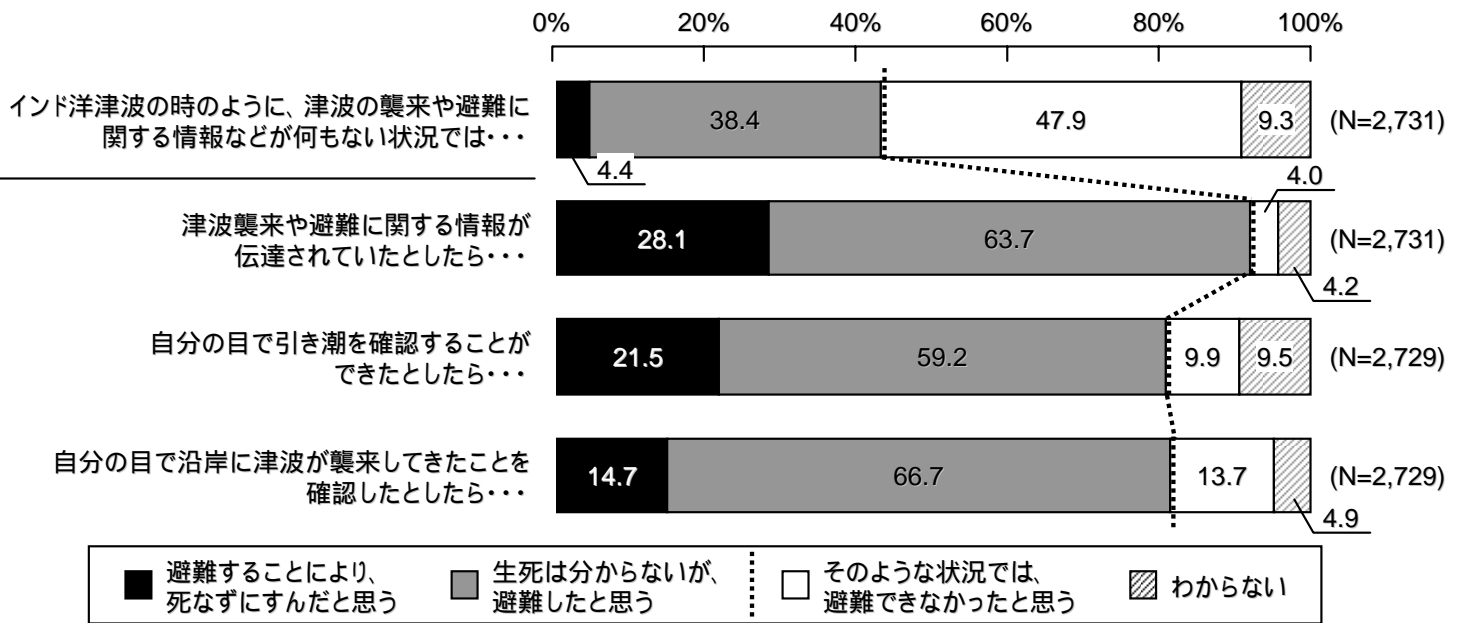
約23%の住民は，インド洋津波発生後に何かしらの『対応を行った』ものの，約51%の住民は『行おうとしたができなかった』，約27%の住民は『行おうとしなかった』と解答している．

インド洋津波発生後，和歌山県民は具体的にどのような対応を行ったのか？



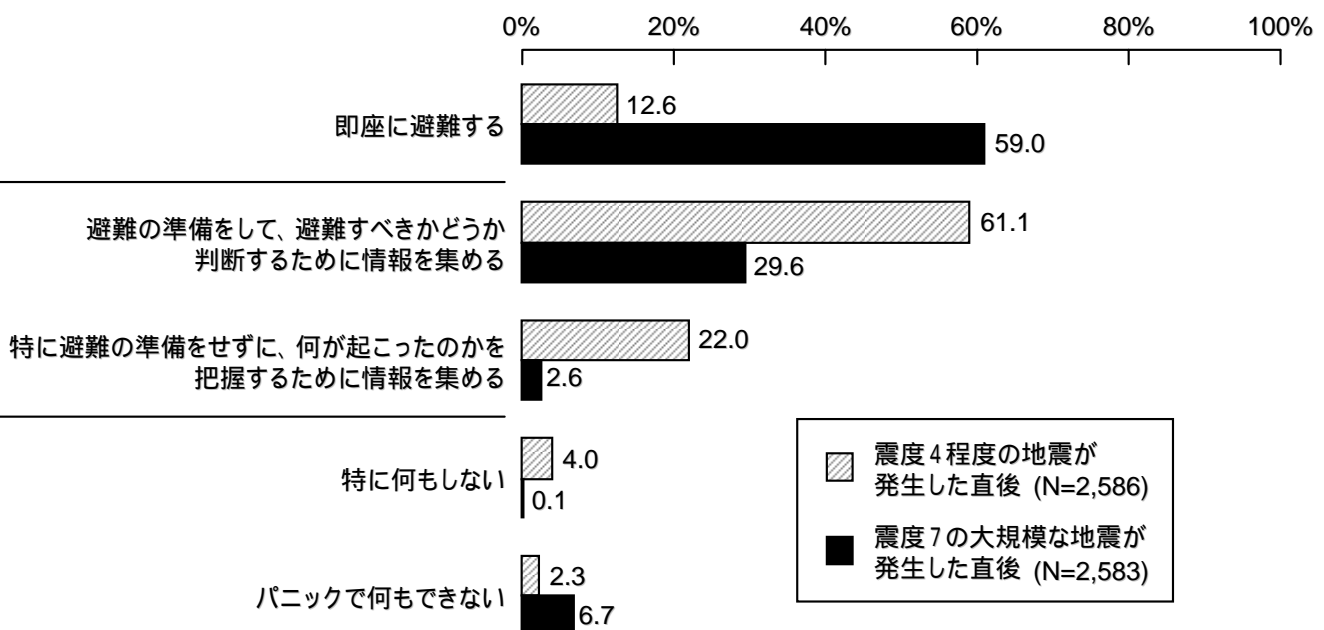
インド洋津波発生後から各対応を行うようになった住民は5～19%程度であった．また，インド洋津波発生前から行っていた住民をあわせても，『損害保険への加入』『家具・家財の固定』や『食糧・水の備蓄』などの対応を行っている住民の割合が低い，

もし、インド洋津波の被災地に、あのときあなたがいたとしたら・・・



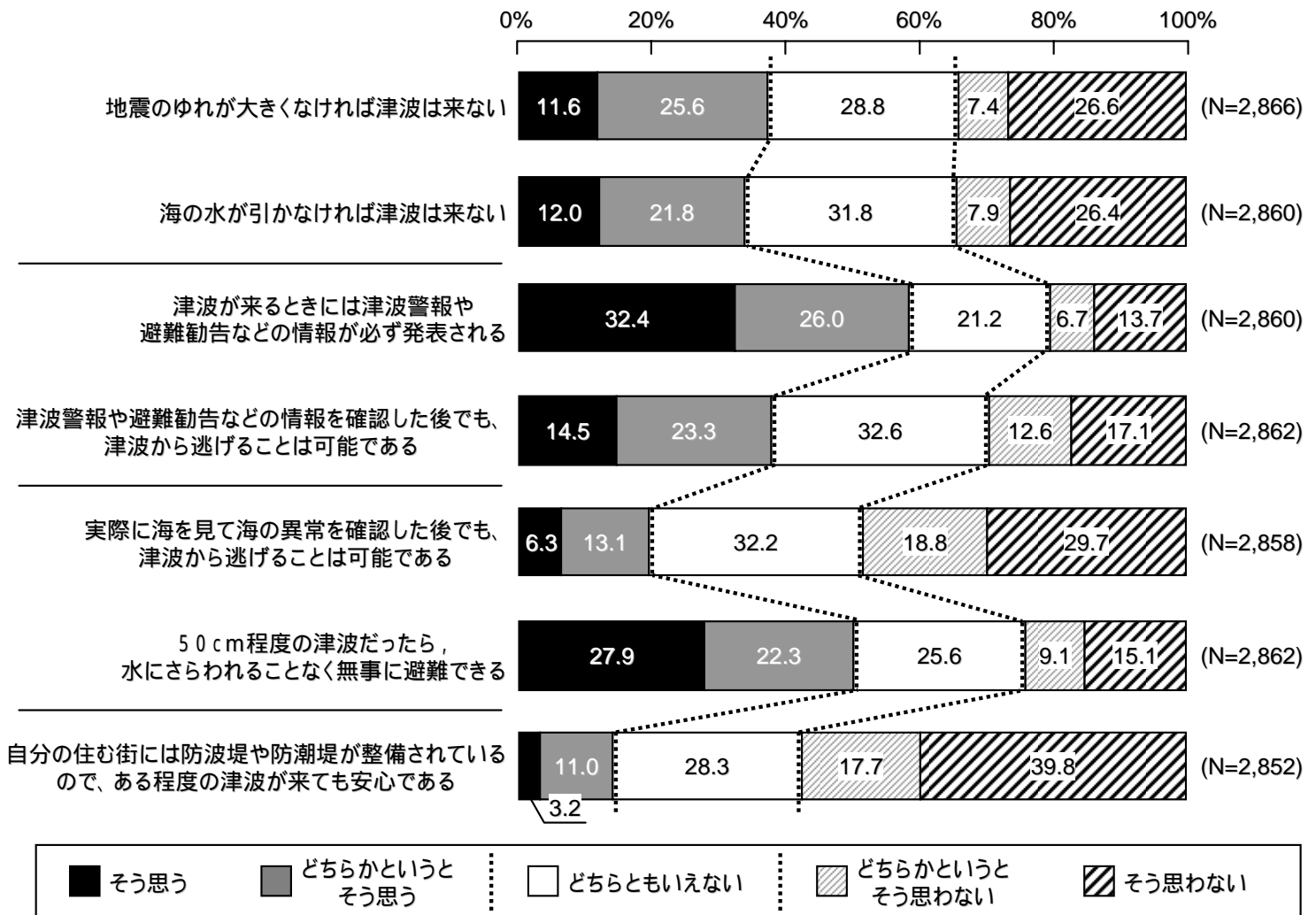
約48%の住民は『情報が何もない状況』では避難できなかったと解答しているが、何らかの情報や状況の変化を確認した場合、多くの住民は避難したと解答している。しかし、『引き潮を確認した後』で約22%の住民が、『沿岸に津波が襲来したことを確認した後』でも約15%の住民が、死なずにすんだと解答している

和歌山県で大きな地震が発生した場合、あなたならどうする？



震度4程度の地震では、『避難の準備をして』と『準備をせずに』を合わせて、約83%の住民は情報を集めると解答しており、『即座に避難する』と解答した住民は約13%であった。震度7の大規模な地震であっても、約30%の住民は『避難の準備をして情報を集める』と解答している。

和歌山県民の津波に関する知識や意識レベルはどの程度か？



津波の発生メカニズムに関する誤認

約38%の住民は「地震のゆれが小さくないと津波は来ない」と思っており、
また、34%の住民が「海の水が引かなければ津波は来ない」と思っている。

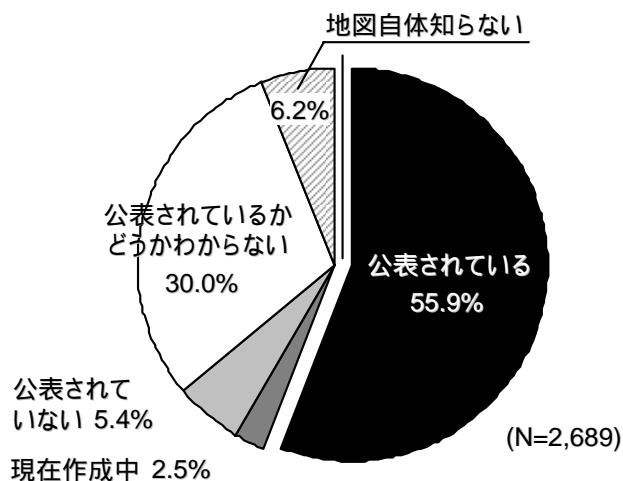
過剰な情報依存

約58%の住民は「津波が来るときには必ず情報が発表される」と思っており、
また、約38%の住民が「情報を確認した後も津波から逃げられる」と思っている。

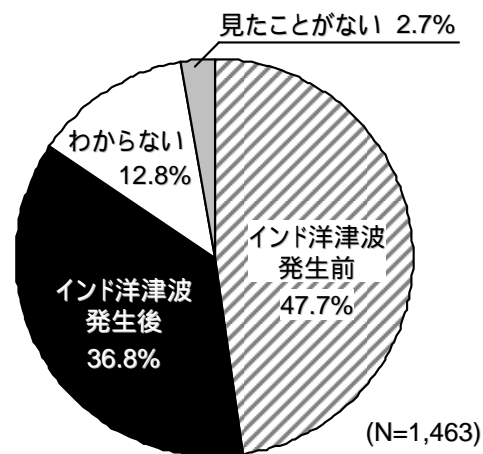
津波避難を安易に考える傾向

約19%の住民は「海の異常を確認した後も逃げられる」と思っており、
約50%の住民は「50cm程度の津波であれば無事に避難できる」と思っている。
また、約14%の住民が「防災施設によって、津波が来ても安全」と思っている。

『津波浸水予測地図』の認知率はどの程度か？



あなたが住まいの町では、『津波浸水予測値図』が公表されているか



初めて見たのはいつか



約30%の住民は、『公表されているかどうか分からない』と解答している。
約56%の住民は、津波浸水予測地図を見たことがあり、
そのうち、約37%の住民は、インド洋津波発生後に初めて見たと解答している。